

()

「就学前編」 サポートブック



先生方 へ

- ・このサポートブックは()が初めての小学校生活をよりスムーズに開始できるように、家庭内外での経験や、医療機関、幼稚園、療育機関などの先生方からの情報に基づいて作成しました。
- ・小学校や関係機関の先生方と()が困った時の工夫の仕方などを情報共有することで、それぞれの場所でもより充実した時間を過ごせるものと思います。
- ・先生方にも小学校で()について発見したことを書きこんでいただけるとうれしいです。
どうぞよろしくお願いいたします。

年 月 日 作成者:()

プロフィール

名 前:

生年月日:

家 族:

住 所:

連 絡 先:

医 療 機 関: ホ ー ム ド ク タ ー …

主治医(発達障がい) …

相談先・支援機関:

診断名(発達障がい): なし・あり ⇒

て ん か ん: なし・あり ⇒

そ の 他 の 疾 患: なし・あり ⇒

薬: なし・あり ⇒

配 慮 事 項: なし・あり ⇒

発 達 ・ 知 能 検 査: なし・あり ⇒

障 が い 手 帳: なし・あり ⇒

いいところリスト

☆できること・がんばっていること

☆特技・とてもくわしいこと

*先生と一緒にたくさんいいところ(具体的な行動)を見つけてください。

好きなこと・落ち着くこと

☆好きなこと

☆落ち着くこと

苦手なこと・不安になりやすいこと

・場 所:

・場 面:

・ひ と:

・食 事:

・その他:

発達の特徴

当てはまるものに☑をつけてください。心配な分野の傾向がわかります。

1. ことば、コミュニケーションの心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
2. 変化への適応の心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
3. 社会性での心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
4. 多動性・衝動性・不注意	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
5. 学習上の心配			
☐ 聞く ☐ 話す ☐ 読む ☐ 書く ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ なし			
6. 運動・姿勢の心配	☐ バランスが悪い	☐ 不器用	☐ 姿勢がくずれやすい
7. 生活面での心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
8. 有効な情報呈示方法	☐ 視覚優位	☐ 聴覚優位	☐ 両方 ☐ わからない
9. 感覚の過敏性			
☐ 視覚 ☐ 聴覚 ☐ 触覚(特に顔) ☐ 味覚 ☐ 嗅覚 ☐ その他 ☐ なし			
10. 知的な面での心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし

具体的には…

当てはまるものに☑を記入してください。困っている分野の傾向がわかります。

お助けアイデアは、具体的には6頁をご覧ください。

具体的には	お助けアイデア
☐ 1 困った時に助けを求めることができない	工夫 1
☐ 2 話す内容が年齢にくらべて幼いように思う	工夫 2
☐ 3 一方的な会話が多い	工夫 3
☐ 4 人の話を聞いて理解するのが苦手 ～一斉指示は無関係と思いがち	工夫 4
☐ 5 複数の指示を覚えるのが苦手	工夫 5

具体的には	お助けアイデア
□ 6 見て理解することが得意 ～禁止の指示は見た方がわかりやすい	工夫 6
□ 7 予定の変更を受け入れにくい	工夫 7
□ 8 新しいもの、場所、人を受け入れにくい ～環境の変化に敏感	工夫 8
□ 9 一つのことにあまりやすい ～興味:車、こだわり:勝敗、順番、道順	
□ 10 ひとり遊びが好き	配慮 1
□ 11 ルールや社会的な約束ごとがわかりにくい	工夫 9
□ 12 思い通りに事が進まなかった時、イライラが高じやすい	工夫 10
□ 13 思ったことを悪気なく口にして、友達とケンカになることがある	工夫 11
□ 14 集団で行動することが苦手	配慮 1
□ 15 いつもおしゃべりしている	
□ 16 じっとすわっていることが苦手 ～立ち歩いてしまう	工夫 12
□ 17 気が散りやすく先生の話聞きのがす、聞き間違える	工夫 4
□ 18 忘れ物・なくし物が多い	工夫 13
□ 19 行事等でいつもと違う雰囲気、テンションが上がり、多動になる	配慮 2
□ 20 一つのことをやり続けることが苦手	工夫 14
□ 21 興味の対象が次々に変わる	
□ 22 正しい発音ができにくい	工夫 15
□ 23 文字を読む、書くことがとても苦手	工夫 16
□ 24 数える、計算することがとても苦手	工夫 17
□ 25 絵を描くことがとても苦手	工夫 18

具体的には	お助けアイデア
☐ 26 遊具であそぶこと（縄跳び、鉄棒、一輪車など）が苦手	
☐ 27 姿勢を保つのが苦手	工夫 19
☐ 28 不器用	
☐ 29 トイレに見守り・配慮が必要	
☐ 30 整理整頓、準備、片づけ（登下校時や授業の時等）が苦手	工夫 20
☐ 31 給食を食べる時に見守り・配慮が必要	
☐ 32 偏食がある	配慮 3
☐ 33 着替えるときに見守り・配慮が必要	
☐ 34 スピーカー等の大きな音が苦手で行事に参加できない	配慮 4
☐ 35 感覚の敏感さのために難しい活動（のりづけ、プールなど）がある	配慮 5
☐ 36 その他（ ）	

☆困っている（心配な）分野

＊先生に相談したい優先順位：1～3まで

記入者（ ）

☑がついた番号	チェック数	心配な 優先順位	困っている（心配な）分野
① ② ③ ④ ⑤ ⑥	／ 6		ことば、コミュニケーションの心配
⑦ ⑧ ⑨	／ 3		変化への適応の心配
⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	／ 5		社会性での心配
⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑	／ 7		多動性・衝動性・不注意の心配
㉒ ㉓ ㉔ ㉕	／ 4		学習上の心配
㉖ ㉗ ㉘	／ 3		運動・姿勢の心配
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	／ 4		生活面での心配
⑥ ⑱	／ 2		有効な情報呈示方法
㉞ ㉟ ㊱	／ 3		感覚の過敏性

先生方からの情報

☆保育所・園で：

記入日 年 月 日

☆療育機関などで：

記入日 年 月 日

☆小学校で：入学から1か月間の様子を教えてください。

記入日 年 月 日

活用しているいろいろな工夫

☆いろいろな工夫例の写真など

検査結果のまとめ

☆主治医、心理士、専門スタッフより

☆保護者より

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 通学区域の小学校

・大阪市ホームページ…「障がいのあるお子さんの就学・進学相談」

<https://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000545291.html>

☆保護者相談窓口 … 大阪市教育局事務局指導部 インクルーシブ教育推進担当

Tel. 06-6327-1016・1017

参考資料：お助けアイデアのいろいろ

心理教育学的に有効であるとされている支援方法のいくつかをご紹介します。

すぐに役立つような方法があればご参考・ご活用ください。

工夫 1： 授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ(☆)

カードを机の上におくと先生が順番に来てくれるシステムは便利。

工夫 2： うまく話せない時は、ゆっくり聞きながら本人が話したいことをことばを補足しつつ話すことで会話が成立しやすくなることが多い。

工夫 3： 順番や交代を意識するゲームや課題を一緒にして交代を練習する。発言の順番や「話す人」「聞く人」が視覚的に明示されているとよりわかりやすい。

工夫 4： 名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示する、一斉指示の後で個別に確認する等で確実に指示内容を理解しやすくなる。

工夫 5： 板書、メモ等で指示内容が呈示されていると再確認しやすい。

工夫 6： ルールや禁止の指示等は、図やマーク、ポスター、短文等で見える形で呈示する方がわかりやすい。

工夫 7： 見える形でスケジュールを呈示しておき、変更もそのスケジュール上で見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。

工夫 8： あらかじめ、初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく。可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っておく(別室に落ち着きに行く、等)。

工夫 9： 社会的な約束事・ルールを明記して伝える。

工夫 10： イライラしてきたときは静かで落ち着く場所へ誘導する。予想通りに進まないことがあるかもしれないことを事前に伝えておくことも1つの方法。

工夫11： 落ち着いてから、本人・相手の気持ちや行動をマンガで見える化しながら話し合い状況を共有する。どうすればよいか話し合った後で、周囲・相手と問題解決することを促す。

工夫12： 授業の流れを見える化(①～②～③～)したり、授業を区切って構成する(15分×3など)、集中が続きにくい子にはプリント1枚中の課題数を減らす等、課題の量とレベルを工夫するとよい。

工夫13： 箇条書きされた連絡事項を連絡帳に記入し、家庭で必ず内容を確認することを連携して取り組み習慣化。チェックリストを使うのも便利。忘れ物をした時にどうするかも決めておくとうれいできる。

工夫14： 宿題をする時は、すぐにできそうな量、集中して取り組みそうな時間に調整して、好き・得意な内容から取り組む。

工夫15： おとなが聞き取って話す楽しさを維持する。発音が不明瞭なために同級生との会話に困る場合は、ことばの相談に行ってみるのもよい。

工夫16： 読みが苦手…文字を拡大する、行間をあける、定規を使い1行ずつ見えるようにする、読めない漢字にルビをふる、句読点に色をつける、文節ごとにスラッシュ(/)を入れる、といった工夫の他に、絵や図や口頭の説明で内容をイメージできるようにすることも効果的。

書きが苦手…量と大きさを調整する。個人に合った量と方法(漢字九九など)で書く練習をするとともに、PCやひらがなゲーム等で文字の構成を楽しみながら学習していくとうれいと思われる。

工夫17： 計算が苦手…数の概念がつかめない場合は、数字や量を視覚的に示す。算数に使う記号の意味やイメージが持てるように、具体物を用いて覚えると効果的。

工夫18： 絵を描くのが苦手…絵に描く内容をイメージしにくい場合は、事前にテーマを決めたり、描く内容を写真や見本で見せるとわかりやすい。感覚過敏や手先の不器用さがある場合は、道具を工夫する。

工夫19： 姿勢保持しやすい座布団(Q チェアマット)などを使う。

メリハリをつけて練習していく(板書を写す時だけ良い姿勢、等)。

工夫20： 仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。

整理整頓された机の写真を見本として示す。

配慮 1： 休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保していただけると安心して1日を過ごすことができる。

配慮 2： あらかじめどこでどんな活動をするか見える形で伝えておいていただく。スケジュールの中に落ち着くために休憩スペースに行くことが入っていたり刺激が入りすぎない場所にいるように配慮していただくと有難い。

配慮 3： 苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請のもとで最初から盛り付けない、残す、という選択肢も設けていただけると安心して給食の時間に臨める。

配慮 4： 聴覚過敏がある。イヤマフ等のお助けグッズの使用や音量を下げる、運動会でのアナウンス方法を変える等環境を調整することを検討していただけるととても有難い。

配慮 5： のりづけはスティックのりで行う、顔が敏感な場合はプールで顔つけなしでOK等、各児の感覚の敏感さに応じて配慮していただけると有難い。